

小中一貫教育、CS・地学協働のさらなる充実へ

小中一貫・CS 通信

NO.69 R6.12.24 幕別町教育委員会 学校教育推進員

今日で2学期が終わります。全国的には5類移行後も新型コロナの流行が途切れることなく続き、他の感染症の季節外れの流行に加えて、気候変動による熱中症への対策など、今年も健康安全に気を配る年となりました。幸いなことに本町では大きな流行や事故がなく年末を迎えられることをうれしく思います。小中一貫教育・CSの推進に奮闘された各学園・学校の皆様、学園・学校を支えてくださったCS関係者の皆様、保護者・地域の皆様に心から労いの言葉を送ります。本当にお疲れ様でした。少し長めに取れる年末年始を楽しく過ごし、3学期に向けて心と体に元気をいっぱい貯めたいものです。今月は、シリーズ学園紹介の第3弾ちゅうるい学園の紹介と寿都町視察団来訪、各学園で行われた実践交流会の特集です。

シリーズ学園紹介 小中一貫の学園って、どんなことをしているの？

学園紹介その3 ちゅうるい学園

ちゅうるい学園って、どんな学校？

忠類地区にある2校、忠類小学校・忠類中学校による一小一中の施設分離型小中一貫校で、忠類市街地に加えて駒島・弘和を含めた広い農村地区を校区にもつ学園です。

郷土愛あふれる地域に支えられる学園

大樹町から分離独立して村政を敷き平成18年に幕別町と合併するまで忠類村として自立してきた歴史を持つ忠類地区は自主自立の気風にあふれ郷土愛の強い地域です。平成22年からは駒島地区も校区に加わり、広大な地域からの絶大な支援・協力のもとに様々な教育活動がなされているのが特長となっています。

充実したふるさと学習・キャリア教育

ちゅうるい学園では、小中一貫のふるさと学習・キャリア教育のカリキュラムを早い時期から整備し、地域の企業・団体からの大きな支援のもと、地域密着のふるさと学習が多数行われています。

ナウマン象記念館の支援・協力のもと行われている、ナウマン象に関連のかぼちゃプロジェクトや発掘体験、モザイクアート、地域の企業や農協・農家が全面的に協力するゆり根、林業、酪農等の体験学習、地域のよさを学ぶシーニックカフェ学習などなど、多彩な学びが小中学校で系統的に行われています。持続可能な忠類を目指して「地域活性化案」をまとめる探究活動を行う中学生は、3年間の活動を通して、地域の魅力を感じながら自己の生き方について考えを深め、ふるさとを愛する心を育てています。



数々の小中合同の取組

開園以来ずっと取り組んでいる小中合同体力テストをはじめ、小中合同研修会、合同 PTA 研修会、研究授業交流、児童生徒と一緒にやる花植え活動などなど、教職員同士、保護者同士、児童生徒の交流・連携が幅広く行われています。



今年度からは生徒指導・特別支援教育交流会が隔月で定期開催されるようになり、連携が一層進みました。また、乗入授業も毎年拡充され、中学校の先生がたびたび小学校に出向き、いろいろな教科で小学校の先生と一緒に指導することが多くなりました。中学校登校も継続されており、小中一貫校としての教育活動が年を追うごとに充実してきています。



運営協議会と一体となった学園運営

ちゅうるい学園では、学校運営協議会を「ちゅうるい学園小中一貫 CS 委員会」と位置づけ、先生方で作る「ちゅうるい学園小中一貫教育推進委員会（教進会）」とともに学園を構成する組織としています。

学園目標の「新しい つながり」も学校運営協議会の熟議を経て設定されました。学園の4つの目指す子ども像も小中両校の共通の子ども像として掲げられ、教進会の部会はそのまま各学校の分掌組織とリンクしていて、学校、学園、運営協議会が同じ目標を掲げ、一体となって活動する体制ができあがっています。



活動サイクルも年度当初の「今年度の重点の確認、アクションプランやロードマップの設定」に始まり、年2回のアンケートで「目指す子ども像」にどれだけ迫れたのかを振り返る検証で改善を図る流れが、先生の組織だけでなく運営協議会にも子ども達にもできていることが大きな強みになっています。



地域学校協働本部がなくても「地域とともにある学校」と「学校を核とした地域づくり」を一体的に進めているちゅうるい学園に今後も注目です。

寿都町視察団来訪 11/19

11月19日(火)、寿都町教育研究会の6人が小中一貫教育ならびに義務教育学校開校に向けての取組を視察するため、幕別町教育委員会とまくべつ学園幕別小学校を訪れました。

視察団のメンバーは、2つの小学校の教頭先生、小学校の教務担当、中学校の教務担当、寿都高校の教務担当、進路担当の先生で、お話を伺うと、寿都町では、義務教育の9年間と高校3年間の連続性、系統性ある教育活動を推進するため、寿都町小中高連携推進委員会による乗入授業等を通じた一貫した教育の推進に取り組んでいるが、まだまだ取り組み始めたばかりで、いろいろ学んでいきたいとのことでした。



まず教育委員会で幕別町全体の小中一貫教育の様子、導入の経緯、成果や課題などについて説明と協議を行い、その後幕別小学校で体育と外国語の乗入授業を参観。昼休憩をはさんで、まくべつ学園の取組（「まくべつ学園の取組紹介」、「乗入授業の取組までの道のり」）の説明と協議を行いました。

協議では、高校との連携の様子や中学校からの乗入授業について多くの質問が出されていました。まくべつ学園小中一貫コーディネーターの2人は、乗入授業を始めるまでの段取りや手立てについて丁寧に答え、アドバイスをしていました。

寿都町では中高の乗入授業は行われているが、小中での乗入授業はこれからとのことで、「まくべつ学園の取組を寿都町で紹介し、寿都町での乗入授業計画に生かしていきたい」と話していました。



各学園の特色生かして実践交流会(授業研究会)開催される!

幕別町では平成30年度まで幕別町教育実践交流会という授業研究会が年1回開催され、全町の先生方が1つの学校に集まって公開授業を参観し研究協議を行っていました。規模も大きく会場校の負担も大きかったことから、学園発足の令和元年度からこれを取りやめ、学園ごとに授業研究会を開催し他の学園からも参加できる形に変更しました。各学園ではそれぞれ工夫を凝らして授業研究に取り組んでいます。

まくべつ学園 11/29 まくべつ学園では研究テーマを小中統一で掲げ、日常的に交流を図っていますが、11月29日に小中合同研修会を幕別中学校で開き、中学校の公開授業を参観し研究協議を行っています。年間を通じた合同研究により、小中9年間の一貫した指導を目指しています。

さつない学園 11/26 11月26日に札内中学校を会場に実践交流会を開催しました。学園3校の教職員が集まり公開された中学校の授業4つをそれぞれ参観しました。授業後に行われた研究協議では活発な意見交流ができました。学園では、このほか授業参観週間も設定し、それぞれの授業を見合う取組を続けています。

札内東学園 11/14 実践交流会では学園3校の教職員が集まり、札内北小学校の公開授業を参観しました。授業後は主体的な学びを引き出す指導方法やロイロノートの活用などICTの効果的・効率的な活用の工夫などについて活発な意見交換を行いました。学園全体で子ども達の実態に応じた効果的な指導方法を模索しています。

小中一貫教育・CS関係 1月の動き

- 10日(金) まくべつ学園三役会議⑧
- 14日(火) さつない学園一日登校部会最終打ち合わせ
- 15日(水) ちゅうるい学園 小中合同研修会
- 16日(木) 糠内学園全体研修
- 17日(金) さつない学園検定・学習会部会(英語検定)
- 21日(火) 糠内学園経営部会
- 23日(木) 糠内学園諸鈍小中学校オンライン交流
まくべつ学園中学校登校②
札内東学園学校運営協議会
ちゅうるい学園学校運営協議会
- 24日(金) まくべつ学園合同研修会
- 27日(月) ちゅうるい学園生徒指導・特別支援交流会
まくべつ学園部活動体験(～30日)
- 30日(木) まくべつ学園中学校登校③
- 31日(金) 札内東学園中学校登校③
さつない学園検定・学習会部会(英語検定)
さつない学園生徒指導交流会

糠内学園 糠内学園は実践交流会の形はとらず、学園共通の研修テーマを掲げ、それぞれの学校が自校に合わせた取組で研究を進め交流する形にしています。各学校の研究授業を参観し研究協議に参加したり紙面による感想交流をしたりする方法で授業研究を今年度は3回行っています。ほかに、学園全教職員による救急救命講習会も開催しています。

ちゅうるい学園 実践交流会については隔年実施としているため、今年度の開催はありませんが、日常的な授業参観や研究授業の参観、研究協議参加等で授業研究を進めています。

合同研修会は15日に授業改善をテーマとして、中学校を会場に行う予定です。